

アンケートにみる美容整形観

受けてみたい人は 65%

第1位は
「レーザー治療でシミ・ソバカスを取る」

受けたい美容整形の基本は除去。
引き算の美学が存在？

2000年12月18日

ポーラ文化研究所
村澤博人 / 阿保真由美

目的

「おしゃれ白書 2000」における美容整形に関する調査データを分析して、美容整形観なるものを明らかにする。

調査概要

「おしゃれ白書 2000」はポーラ文化研究所が 1979 年以来継続している調査で、3 年毎に実施している。概要は以下の通りとなる。

調査地域：首都圏 30 キロ圏内

調査対象者：上記エリア内に居住する 15 歳からから 65 歳までの女性、910 人

サンプルデザイン（単位：人）

15 ～ 18 歳（高校生）	70
19 ～ 23 歳（学生）	70
19 ～ 23 歳（社会人）	70
24 ～ 29 歳（未婚）	70
24 ～ 29 歳（既婚）	70
30 ～ 34 歳（未婚）	70
30 ～ 34 歳（既婚）	70
35 ～ 39 歳	70
40 ～ 44 歳	70
45 ～ 49 歳	70
50 ～ 54 歳	70
55 ～ 59 歳	70
60 ～ 64 歳	70

調査対象抽出法：エリアサンプリング法

調査方法：戸別訪問面接聴取法および留置法の併用

調査期間：2000 年 6 月

調査結果

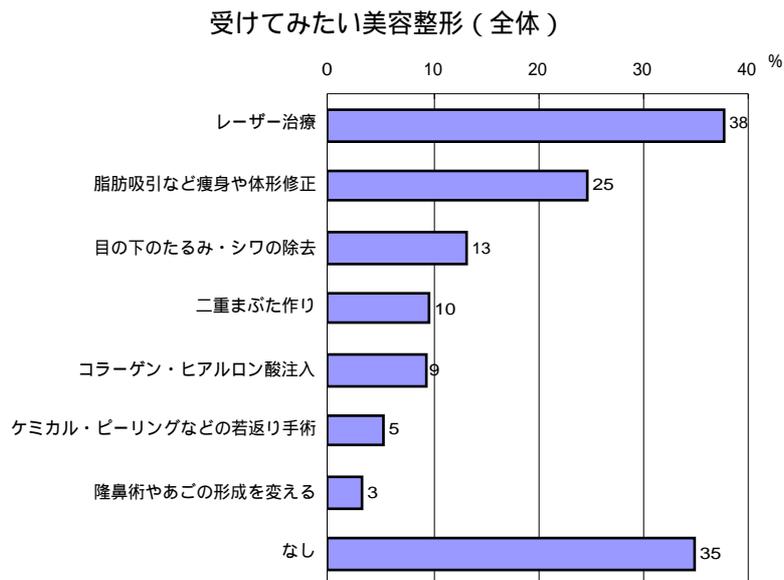
質問 「美容整形についてお伺いします。次の項目で受けてみたいと思われるものがありましたら、 印をお付けください。(印はいくつでも)」

1. 二重まぶた作りなどの切開による手術
2. 目の下のたるみ・シワの除去による若返り手術
3. ケミカルピーリングなどの若返り手術
4. 隆鼻術やあごの形成を変える手術
5. 脂肪吸引など痩身や体形修整
6. コラーゲン・ヒアルロン酸を注入して若々しく見せる
7. レーザー光線でシミ・ソバカスなどを取る

A) 受けてみたい美容整形 65%があり。

上記枠内の質問に対して、「回答なし」が35%と3分の1以上いた。残りの人は1から7のいずれかに少なくとも一つの をしている受けてみたい美容整形がある人となる。その数は「回答なし」の35%を除いた、残りの65%、3分に2の人の回答となる。

受けてみたい美容整形のトップは、下のグラフのように、「レーザー光線でシミ・ソバカスなどを取る」で



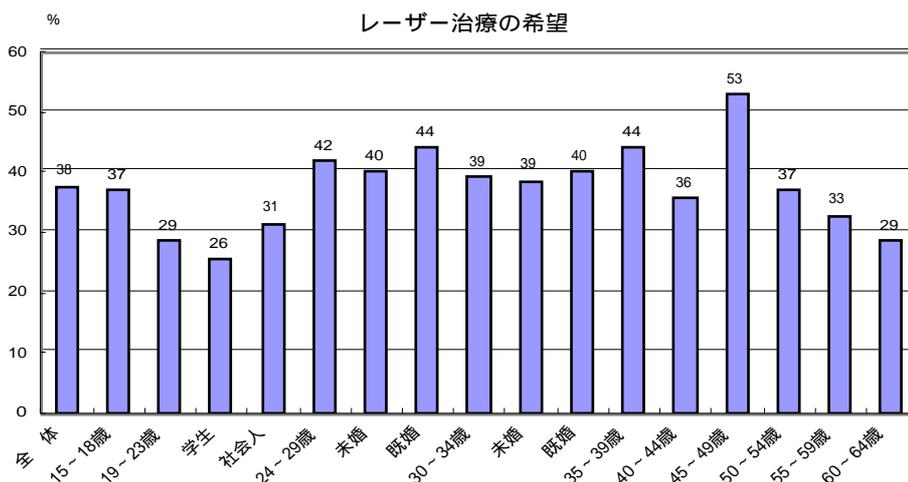
「おしゃれ白書 2000」ポラ文化研究所

38%、受けてみたい項目を選択した人のなかでは58%と半数以上の支持を得たことになる。続いて「脂肪吸引など痩身や体形修整」が25%、「目の下のたるみ・シワの除去による若返り手術」13%、「二重まぶた作りなどの切開による手術」10%、「コラーゲン・ヒアルロン酸を注入して若々しく見せる」9%という結果であった。

では各項目について年代別ではどのような傾向が見られるのだろうか。以下、詳述する。

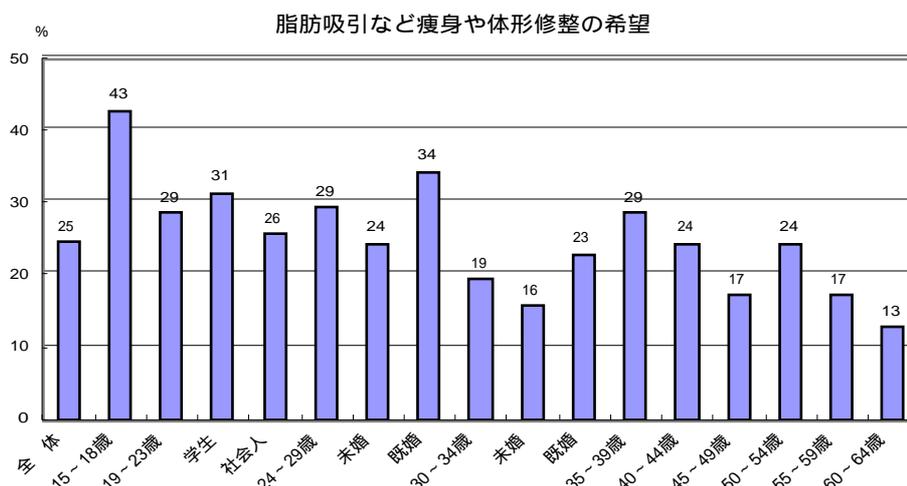
B) 「レーザー光線でシミ・ソバカスなどを取る」

いわゆる「レーザー治療」について年代別にどう回答があったかを示したのが、次ページのグラフである。高校生でもほぼ平均値 (= 全体の値) を示し、20代前半で下がるが、20代後半から40代前半まで40%前後を推移し、40代後半で53%と急に増えるが、50代以上では下がっていく傾向にある。



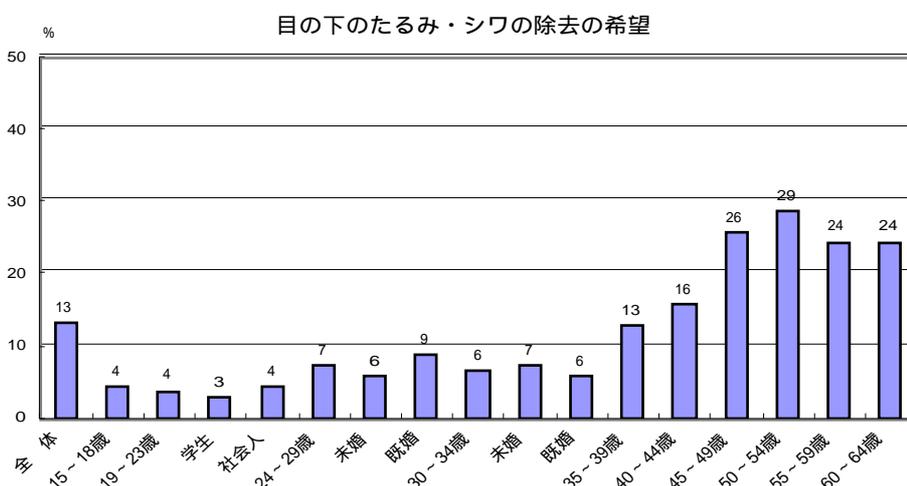
c) 「脂肪吸引など痩身や体形修整」

脂肪吸引など痩身や体形修整の結果は、高校生で43%というもっとも高い値を示した。次に20代後半の既婚女性で34%と続く。大まかには10代から20代で高めで、30代より上になると20%以下の支持率が増えてくる。



d) 「目の下のたるみ・シワの除去による若返り手術」

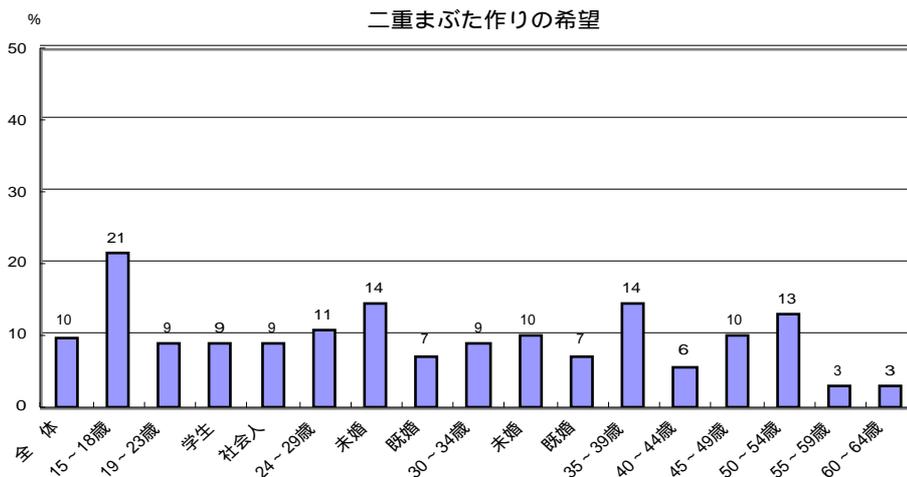
たるみやシワの除去による若返りに対する希望は全体では13%と低くなるが、下のグラフのように年齢的な



特徴がはっきり出てくる項目である。30代前半までは6%前後を推移するが、35歳を越えると、10%以上に膨らみ、40代後半以上では20%を超える希望者がある。20%とは美容整形を希望する人だけで見ると30%に匹敵するので、45歳以上の美容整形希望者の3人に1人は「たるみやシワの除去による若返り手術」をやってみたいということになる。

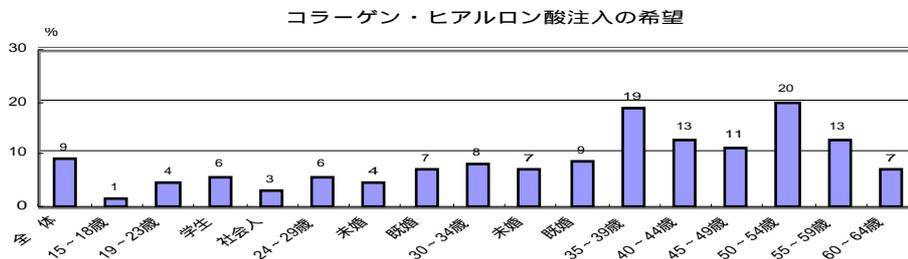
e) 「二重まぶた作りなどの切開による手術」

美容整形の歴史をたどると、初期には隆鼻術と二重まぶたの形成が出てくるが、今回の調査では4位で10%、10人に1人が二重まぶたにしたいと希望していることになる。高校生は21%が希望し、平均を越える値は20代後半の未婚、30代後半、50代前半の女性たちにおいてである。



f) 「コラーゲン・ヒアルロン酸を注入して若々しく見せる」

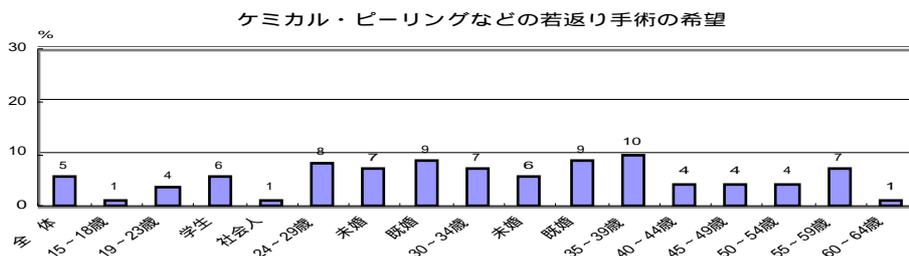
コラーゲンなどを注入してヒフに張りをもたせ、若々しく見せる方法は全体では9%と支持が低いですが、年齢別に見ると、30代後半、50代前半に特異的に高い値が見られる。全体的には中高年以上に支持が集まってい



る結果であった。

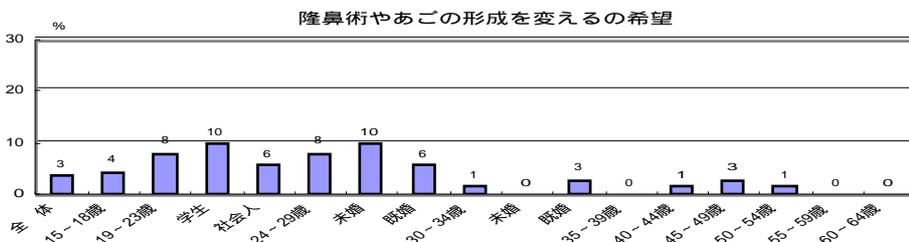
g) 「ケミカルピーリングなどの若返り手術」

最近、いろいろと話題になっているケミカルピーリングだが、20代後半から30代にかけて比較的支持が集まっている。この手術が有効と思われるあるていど加齢を経た肌の持ち主の40代後半以上にはあまり支持が見られない。



h) 「隆鼻術やあごの形成を変える手術」

鼻やあごの形を直接変える手術に関しては、選択肢のなかではもっとも低い結果であったが、20代で高い支持が得られている。

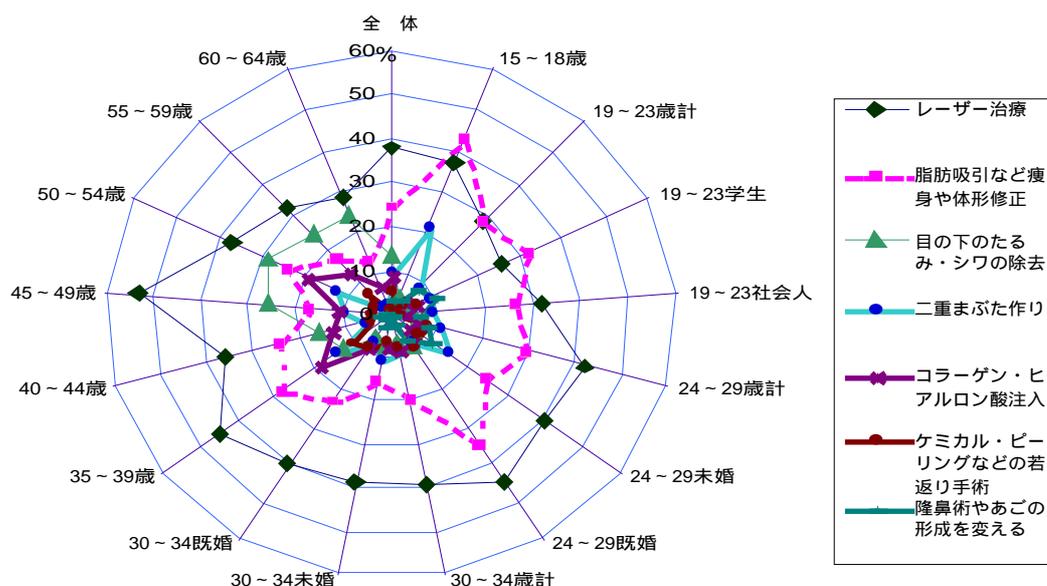


i) 年代別に見たベスト4

年代別にベスト4位まで見たのが下の表である。太字は10%以上を示す。

	第1位	第2位	第3位	第4位
全体	レーザー治療	脂肪吸引など	目の下のたるみ除去	二重まぶた作り
15～18歳	脂肪吸引など	レーザー治療	二重まぶた作り	隆鼻術やあごの形成
19～23歳計	レーザー治療	脂肪吸引など	隆鼻術やあごの形成	二重まぶた作り
19～23歳学生	脂肪吸引など	レーザー治療	隆鼻術やあごの形成	二重まぶた作り
19～23歳社会人	レーザー治療	脂肪吸引など	二重まぶた作り	隆鼻術やあごの形成
24～29歳計	レーザー治療	脂肪吸引など	二重まぶた作り	ケミカルピーリングなど/隆鼻術やあごの形成
24～29歳未婚	レーザー治療	脂肪吸引など	二重まぶた作り	隆鼻術やあごの形成
24～29歳既婚	レーザー治療	脂肪吸引など	目の下のたるみ除去	ケミカル・ピーリングなど
30～34歳計	レーザー治療	脂肪吸引など	二重まぶた作り	コラーゲンなど注入
30～34歳未婚	レーザー治療	脂肪吸引など	二重まぶた作り	コラーゲンなど注入/目の下のたるみ除去
30～34歳既婚	レーザー治療	脂肪吸引など	コラーゲンなど注入	ケミカル・ピーリングなど
35～39歳	レーザー治療	脂肪吸引など	コラーゲンなど注入	二重まぶた作り
40～44歳	レーザー治療	脂肪吸引など	目の下のたるみ除去	コラーゲンなど注入
45～49歳	レーザー治療	目の下のたるみ除去	脂肪吸引など	コラーゲンなど注入
50～54歳	レーザー治療	目の下のたるみ除去	脂肪吸引など	コラーゲンなど注入
55～59歳	レーザー治療	目の下のたるみ除去	脂肪吸引など	コラーゲンなど注入
60～64歳	レーザー治療	目の下のたるみ除去	脂肪吸引など	コラーゲンなど注入

受けてみたい美容整形（年代別）



前ページの表と上のグラフ・レーダーチャートを参考に特徴を書き出してみると15～18歳の高校生と19～23歳の学生で「脂肪吸引など」が1位を示すほかは、どの年代でも「レーザー治療」が第1位である。

2位は40代前半までは「脂肪吸引など」で、45歳を越えると「目の下のたるみなどの除去」に替わる。第3位第4位は30歳未満では「二重まぶた作り」「隆鼻術やあごの形成」でほぼ占められている。30代では「二重まぶた作り」「コラーゲンなど注入」が中心となり、40代以上ではほぼ「脂肪吸引など」「コラーゲンなど注入」となる。特に40代以上では4位までは同じ選択肢で占められている。

考察

受けてみたい美容整形とは

A) 受けてみたい美容整形とは

この調査の質問項目は、美容整形外科の広告などを含めた資料よりまとめて選択肢とした。その選択肢の中で受けてみたいと思われるものに印をしてもらうように設定したが、無解答、すなわち「(回答)なし」が35%と3分の1以上いた。したがって残りの65%、約3分に2の人が回答したことになる。

選択肢の中に「なし」を入れたり、あるいは美容整形自身を受けるかどうかという質問ではないが、結果的にはたいへん高い数値である。ちなみに別の質問(「美容サービスを受けてみたいかどうか」の選択肢の一つに美容整形を入れた)を聞いた時の支持率が後述するように18%だった)

「受けてみたい美容整形」の上位3位までの「レーザー光線でシミ・ソバカスなどを取る」「脂肪吸引など痩身や体形修整」「目の下のたるみ・シワの除去による若返り手術」と第5位の「コラーゲン・ヒアルロン酸を注入して若々しく見せる」は、一言でまとめると、現在あるもの・年と共にできたものを取り去る(除去、あるいは除去して元に戻す)手術である。それに対して、4位以下の「二重まぶた作りなどの切開による手術」「隆鼻術やあご形成の手術」は、「今までなかったものを加える、形を変える」手術といえる。上位を占める手術は圧倒的に「除去の手術」が多いといえよう。

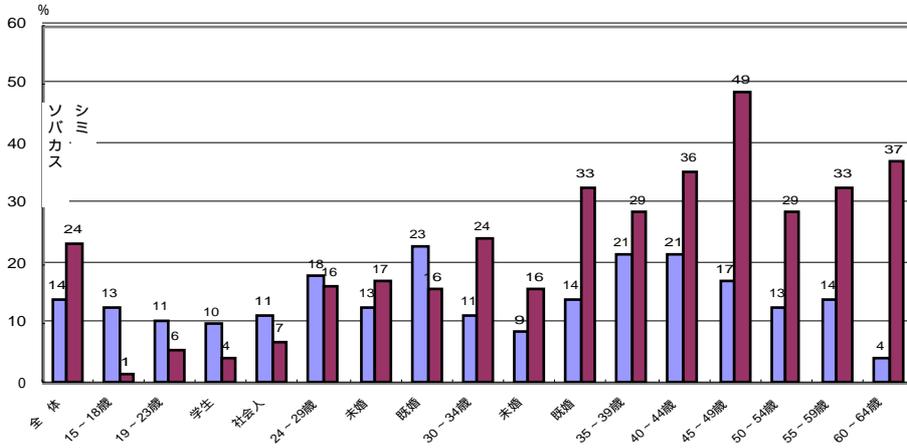
ではどのような年代が主として除去を望むのか、年代別に分析した結果を考察してみよう。

B) 「レーザー光線でシミ・ソバカスを取る」

「レーザー治療」で、除去するものはシミ・ソバカスである。全体に高いが、40代後半が突出していた。ではシミ・ソバカスの悩みはどうだろうか。同じ「おしゃれ白書 2000」の「あなたの肌の悩みは？（複数回答可）」のデータから取り出してみた。

その結果、シミについてははっきりと年齢とともに増える傾向があり、最大値が40代後半（53%）でレーザー治療の希望者と重なる。ソバカスについては、もともと個人差があり、加齢によって増える人はいても小数であるためであろう、年齢による違いはそれほど明確でない。したがってレーザー治療

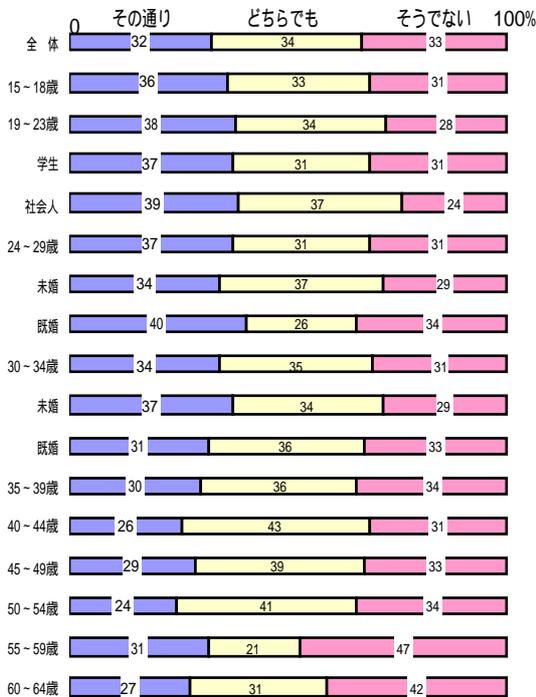
シミ・ソバカスに悩む女性



の希望者の30代以上の既婚者にはシミを取りたい人が多く存在すると考えてよいだろう。

c) 「脂肪吸引など痩身や体形修整」

「ダイエットに心がけている」人は



「痩身や体形修整」というと、ダイエットという言葉が出るのが、今の時代かもしれない。ダイエットについても「ふだんからダイエットに心がけている」かどうかを質問しているため、そのデータを左のようにグラフ化した。

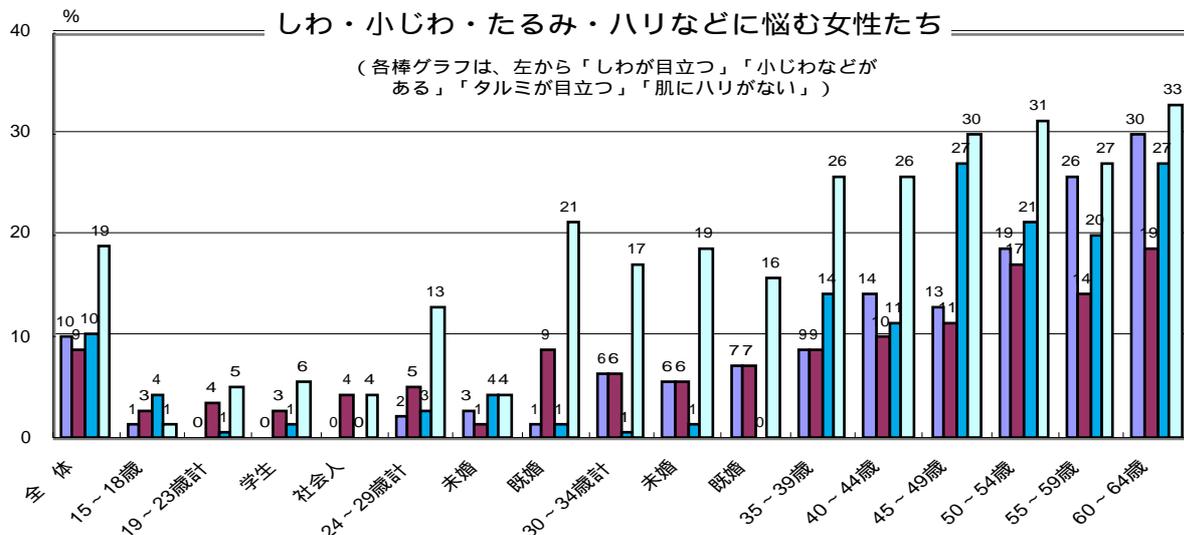
傾向としては20代が40代以上よりもダイエットに心がけているように見える。この点は「痩身や体形修整」に対する回答と同じような傾向を示すが、ダイエットにおける数値の幅は最大で10数%である。部分的に見ると24～29歳の既婚が34%と高いのとダイエットに心がけている同じ年代が40%と高いことは重なるが、後はそれほど明確な傾向は見えない。

一方、「痩身や体形修整」で高校生が一番高い値を示した結果は想定はしていなかった。彼女たちは左のグラフでもわかるとおり、特にダイエットを心がけている集団ではない。43%という半数近い印象を受けるが、それほど割合の高校生が「痩身や体形修整」を望んでいるということはどういうことだろうか。実際にそれほどの割合で太っている人がいるとは思えない。むしろ、「もっとスリムに」という願望がそうさせているようにも思える。自らそう望んでいるのか、そう望むのがふつう、当たり前という気持ちからなのだろうか。不思議と思えば不思議な結果である。

d) 「目の下のたるみ・シワの除去による若返り手術」

「たるみやシワの除去」による若返りは第3位となるが、このタルミ・シワも加齢によって起こる現象である。前述の肌の悩みの質問にも、たるみ・シワ関連の内容があるので、次ページに示した。

各年代の左から「しわが目立つ」「小じわ・縮緬じわがある」「たるみが目立つ」「肌にハリがない」の順になる。24～29歳の既婚者以上になると、「小じわ・縮緬じわがある」「肌にハリがない」という悩みが急増しはじめ、30代に入ると「しわが目立つ」が、35歳以上になると「タルミが目立つ」が悩みとして登場し、年



齢が高くなるにつれて増加傾向を示す。

このような悩みを前提に「たるみやシワの除去」の結果を見ると、凹凸が重なっているのがわかる。

e) 「二重まぶた作りなどの切開による手術」

ポーラ文化研究所の1991年からの調査レポートで顔の美醜観がある。こちら「おしゃれ白書」での質問項目をまとめたものである。内容は、顔のなかで好きなところと嫌いなところと、それぞれの理由を聞いて、それらの全体から現代女性の理想とする顔を言葉で表現している。2000年度版は2001年1月に発行予定であるが、従来の結果は好きな部位は目で、半数以上の支持がある。その理由は、二重で大きいから。逆に一重で小さいと嫌いな理由となる。

このことを前提にデータを見ると、高校生で「二重まぶた作り」の希望者が多いのは、うなずける。35～39歳で一度上がり、50代前半で再度高くなるのも、前項のたるみの除去との関係で考えると、上まぶたが下がってくるのを二重にしたりして防ぐためと考えることができる。

f) 「コラーゲン・ヒアルロン酸を注入して若々しく見せる」

コラーゲンなどの注入は、前項の30代以上の傾向と重なる。30代後半で一度上がり、50代前半で再度上がっている。60代に入ると二重にしたり、コラーゲンを入れようとは思わなくなるようだ。

g) 「ケミカルピーリングなどの若返り手術」

ケミカルピーリングは安全性の問題などがよく指摘されていて、負の情報を含めて話題となっている。結果は10%以下で、明確な傾向が見えにくいためにこれ以上のコメントは避けたい。

h) 「隆鼻術やあごの形成を変える手術」

20代で高い支持が得られたのは、おそらく自分の顔の欠点とと思っているところを直したい。直してもっと魅力的になりたい、という願望が一般的に一番強い年代と考えられているので、当然の結果と読める。

二重まぶたの項でも紹介した現代女性の美貌観のレポートでもいつも嫌いな部分のトップが鼻である。1997年の結果を見ても、27%、3割弱が嫌いだと答えていた。その理由は低い、大きい(横に張っている)などである。高いだけでなく、鼻筋が通っていて正面から見て細い=小さく見える鼻が好まれているようだ。少しでもそのような鼻にしたいということなのだろう。

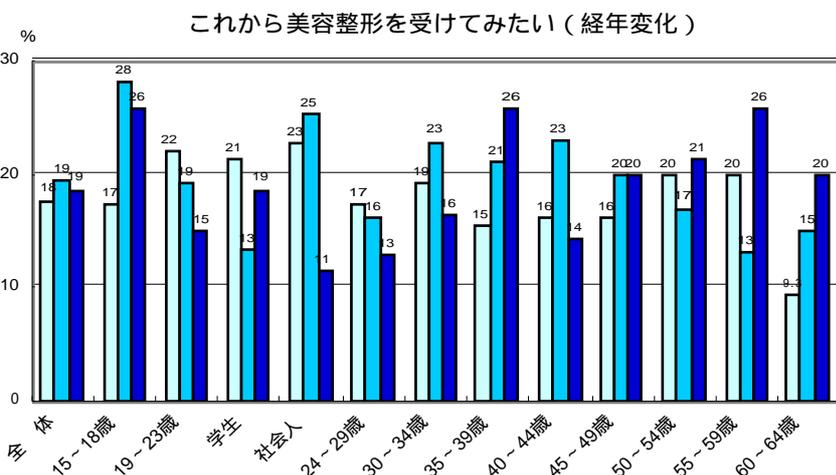
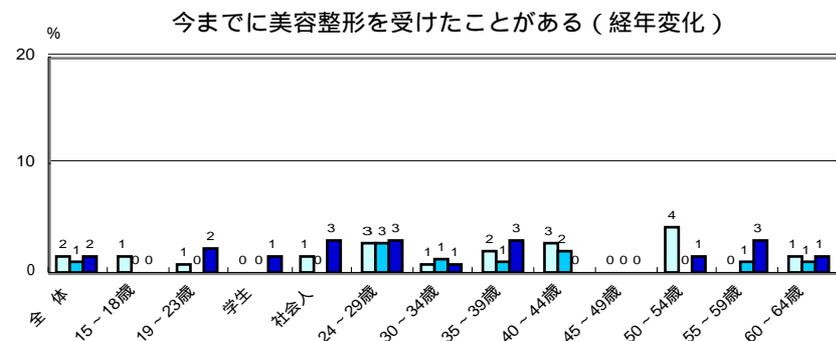
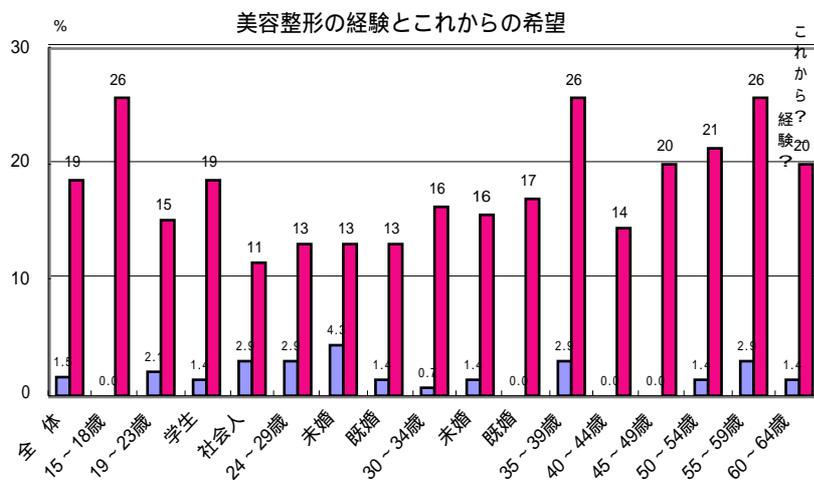
l) 年代別に見たベスト4

15～18歳の高校生から40代前半までは、1位と2位は変わらない。45歳を越えると「目の下のたるみなどの除去」が出てくるのは加齢による変化と考えられる。さらに3位と4位を見ると、30歳未満では「二重まぶた作り」「隆鼻術やあごの形成」で、自分の顔に対するマイナスと思っている不満点を変えることでプラスにもっていきたいという思いを感じることができる。その意味で、30代は20代と40代の両方の要素を含んだ結果だった。40代以上での「脂肪吸引など」「コラーゲンなど注入」は「目の下のたるみなどの除去」同様、加齢に対する変化を元に戻したいという欲求の現われであろう。

4位までの結果からも、受けてみたい美容整形の基本は除去であることが明確となった。

j) 参考 美容整形の経験とこれから

今回紹介した質問以外に「受けてみたい美容サービス」を聞いている。それは全部で15項目の選択肢（美容相談、メイクサービス、美顔、全身美容、デザイナーによるヘアカット等、カラーアドバイス、歯の矯正、美容整形、エアロビ等のトレーニング、食事指導、温泉やジェットバスなどの入浴・サウナ、ヨガや太極拳、ハンド＆ネイル、クイックマッサージ、トータルファッションアドバイス）のなかでの選択で、美容整形については説明書きに「しわのぼし、隆鼻脂肪吸引、シミ・アザの除去」を加えている。質問内容は「今までに受けた経験」があるか、「これから受けてみたい」かである。この結果を最後に加えて考察してみたい。



美容相談、メイクサービス、美顔、全身美容、デザイナーによるヘアカット等、カラーアドバイス、歯の矯正、美容整形、エアロビ等のトレーニング、食事指導、温泉やジェットバスなどの入浴・サウナ、ヨガや太極拳、ハンド＆ネイル、クイックマッサージ、トータルファッションアドバイス)のなかでの選択で、美容整形については説明書きに「しわのぼし、隆鼻脂肪吸引、シミ・アザの除去」を加えている。質問内容は「今までに受けた経験」があるか、「これから受けてみたい」かである。この結果を最後に加えて考察してみたい。

受けたことがある人は1.5%
 いままで美容整形を受けたことがある人は今回の調査では1.5%であった。

年齢別に傾向を見てみると、最大は24～29歳(未婚)で4.3%、続いて19～23歳(社会人)、35～39歳、55～59歳の2.9%となる。回答者が0%という年代も、15～18歳、34～39歳(既婚)、40～44歳、45～49歳と、存在した。

美容整形を受けてみたい人は19%

今まで受けたかどうかという経験に対して、これから美容整形を受けてみたい人は全体では19%いた(上グラフ)。年齢別に

傾向を見ると、15～18歳の高校生、35～39歳、55～59歳が26%と高く、続いて50～54歳の21%、45～49歳、60～64歳の20%となる。

美容整形を受けたことがある人は6年前と変化ない

この調査項目は1994年より継続しているので、過去のデータ、1994年、1997年を加えて経年変化を見てみた。結果は次ページのグラフのように、全体としても2%（1994年、1.5%を四捨五入して）、1%（1997年）、2%（2000年、1.5%を四捨五入して）とあまり変化のない結果であった（この人数の調査では数%は誤差に入りうるので、数%の変化は誤差範囲とみなされる）。

美容整形を受けたい人もまた6年前と変化ない

では、これから美容整形を受けてみたい人はどうであろうか。前ページのグラフに示すように、全体ではほとんど変化のない結果であった。年齢別に見ると、35～39歳、60～64歳のように増える傾向を示す年代もあれば、19～23歳（社会人）、24～29歳のように下がる傾向の年代も見られたが、このグラフではこれ以上の明確な傾向を見いだすことはできない。

以上、別のデータから美容整形の経験と今後の希望と経年変化を見てみた。質問の設定が異なるために、同じ土俵で見比べることはできないが、この6年でほとんど変化は見られず、希望者が20%弱いる結果であった。

振り返って、「受けてみたい美容整形」は？と具体的な内容を問うと、除去する（除去して元に戻す）ことに対する積極性は見えるが、作り替えることに対しては全体的には低い結果であった。若い時の状態を取り戻そうという「若さ志向」でもあり、いいかえ方を代えると「引き算の美学」でもある、と言えよう。

よく「親からもらった身体を傷つけることはよくない」とする考えが、日本における美容整形が他国に比べて普及しにくい理由に挙げられる。しかし、耳に穴を開けるピアスの普及は「おしゃれ白書2000」の別のデータをみると、20代で50%を越えている。ピアスの流行がそうさせているのか、あるいはピアスの流行がきっかけとなって、身体を加工する美容整形が普及するのだろうか。「引き算の美学」からはイエスという答えは見いだしにくい。

さらに言えば、ポーラ文化研究所の日韓中の美貌観の比較研究（注1）の結果や「身体のポリティクス 日本美容外科手術を中心に」（川添裕子 2000 注2）を見ても、積極的な作り替えは日本社会での個のあり方が変化しない限り、普及しにくいと思われる。

その意味で、今回の調査結果からは、これからは、除去、あるいは元に戻す手術が美容整形の主流として推移していくのではないかと推察できる。

注1）1992年よりポーラ文化研究所で実施してきている共同研究。同じような顔立ちをしている日本人、韓国人、中国人で、美貌観を含めた顔観、身体観がどう違うのかを顔写真を使って調査研究している。日本顔学会、韓中日美術解剖学国際シンポジウムにて発表。

注2）千葉大学大学院社会文化化学研究科都市研究専攻博士論文。